

令和 6 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	15	学 校 名	東部特別支援学校伊豆高原分校	校 長 名	佐々木 雅則
------	----	-------	----------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
守る	安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得	・研修を生徒の指導、支援に役立てた。	年度当初に中学からの移行支援の内容について周知	A	<成果> ・新入生についての大まかな様子が丁寧に説明され、理解できた。 <課題> ・年度途中でも新たな課題が見つかった場合は全体で共有したい。
		・マニュアルで災害時自分の動きが把握できた。 ・災害時、どのように行動すればよいか理解できた生徒80%以上	実際に訓練をすることで災害時の動きが確認できた。災害が起きた時どうしたらいいかわかると答えた生徒94%	A	<成果> ・訓練、研修を通じて災害時の動きの確認ができた。 ・繰り返しの訓練で生徒自身が動きを把握できた。 <課題> ・必要な掲示物、カードなどを準備したい。 ・様々なパターンの訓練を実施したい。
	互いを認め合い人権を尊重した教育の推進	・友達を思いやる行動ができた生徒 90%以上	友達を思いやる行動ができたという生徒76%	B	<成果> ・特に2年生の意識が高まった。 <課題> ・コミュニケーション不足によるちょっとしたことでのトラブルが多い。
		・生徒の人権を意識して指導、支援できた職員100%	人権を意識して指導、支援できた教職員96%	B	<成果> ・「さん」づけを意識しながら教育活動ができた。 <課題> ・教職員間での意識の差がある。 ・職員室での会話にも気を付けたい。
育む	生徒が主体的に学べる授業づくり	・外部からの助言が役に立った	外部講師による授業研究2回	A	<成果> ・外部講師の指導、助言により授業改善の意識がついた。 <課題> ・授業研究では計画的に全体で確認できる時間を確保したい。
		・ICT活用ができた教職員90%以上	外部講師による研修、情報課職員による研修の実施 活用できた教職員100%	A	<成果> ・必要なときに使用することができた。 <課題> ・学期ごとに研修を行いたい。 ・ICTとアナログを臨機応変に使いたい。 ・みんなでスキルアップを図りたい。

様式第3号

	自立と社会参加を目指した進路指導	・家庭と連携しながら実習を実施、進路決定に向けた関係機関との連携ができた。	考えに違いがあっても話し合いを重ね、生徒が希望している実習先、進路先に近づけることができた。関係機関との連携は計画通りにできた。	A	<成果> ・1年生の短期実習は進路指導を進めるうえでよかった。 ・本人、家庭の希望した実習先を提示できている。 <課題> ・連携が難しい家庭が増えてきている。 ・学校と家庭の考えの差が大きい。
	自分の課題、目標に沿った研修	・研修を教育活動に活かした教職員 90%以上	大学教授によるケース研修の実施。 ミニ研修6テーマの実施 研修を生かしたとする教職員 100%	A	<成果> ・専門の先生の話はすぐに生かせるもので、またこれまで気づけなかった視点も知ることができ参考になった。 ・ミニ研修は自分で選んで研修ができた。 <課題> ・専門の先生の研修を継続したい。
つなぐ	途切れのない支援体制の構築	・対応方法について学年、学部で共有できた ・ケース会議を踏まえ、今後の方向性が見えた	校内ケース会議 10 事例 校外関係機関を入れてのケース会議 5 事例	A	<成果> ・校内ケース会議、関係機関を入れたケース会議はタイムリーだった。 <課題> ・ケース会議の情報をもっと共有したい。 ・対応の難しいケースについてもっと全体で考えたい。必要に応じてすぐにでも外部を入れてのケース会議も必要。 ・個別教室の在り方について考えたい。
	情報共有と情報発信	・支援内容を校内で共有、発信できた	小中高校で延べ 50 件以上の相談に対応。 子どもへの対応の仕方、関係機関の情報を発信できた。	A	<成果> ・すぐに連携できる体制ができている。 <課題> ・中学校の進路指導についても支援が必要である。
	併設校、地域との共生共育の実施	・今後の共生共育に期待が持てると答えた職員 90%以上	希望が持てると感じた教職員 96%	A	<成果> ・自然な交流ができていた。生徒も楽しんでた。 ・伊豆高原フェスタに参加してくれてよかった。 <課題> ・継続していくことが大切。 ・学年交流ももっと計画的に行いたい。
高める	充実した業務ができる職場環境の構築	・事務処理の時間が十分確保できた職員 90%以上 ・生徒に向き合う時間が十分確保できた職員 90%以上	確保できたと感じる教職員 96% 公務の効率化が図れたと感じた教職員 86%	B	<成果> ・個別対応が必要な生徒について向き合う時間は十分とれた。 ・様子や顔つきなどの変化をとらえられるようになってきている。 <課題> ・個別対応する時間分、事務処理、授業準備の時間が確保で

様式第3号

		Google ワークスペースを活用することで、公務の効率化が図れた		A	きなくなる。 - 勤務時間内に授業準備の時間も確保したい。 <成果> <課題> - ワークスペースが特別業務の効率化につながるかは疑問。 - 個人的にもっと研修したい。
	不祥事根絶	- 不祥事を身近なこととして意識できた教職員 100% - ヒヤリハットを教育環境の見直しに活かした教職員 100%	不祥事を意識したり、ヒヤリハットを生かしたりできた教職員 100%	A	<成果> - 不祥事やヒヤリハットを定期的に発信されたことで、自分のこととして気をつけようとする意識がついた。 <課題> - 常に意識高い集団でありたい。